



# 山形県感染症発生動向調査

平成30年第32週(8月6日～8月12日)

山形県感染症情報センター(山形県衛生研究所)  
 TEL.023-627-1109, FAX023-641-7486  
 URL <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/>  
 2018年8月15日 発行

## <定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※◎:警報レベル

○:注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県) 第1~32週
	第31週	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	
<b>インフルエンザ定点</b> (定点医療機関数)		(41)			(17)			(5)			(10)			(9)			
インフルエンザ	262 0.05																16171
<b>小児科定点</b> (定点医療機関数)		(26)			(11)			(3)			(6)			(6)			
RSウイルス感染症	4180 1.33	21 0.70	11 0.42	▽	7 0.54	4 0.36	▽	1 0.33	2 0.67	▲	13 2.17	5 0.83	▽				397
咽頭結膜熱	1594 0.51	18 0.60	13 0.50	▽	2 0.15	2 0.18	△	1 0.33		▽	15 ◎2.50	10 ◎1.67	▽	1 0.17		△	658
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	4532 1.44	40 1.33	29 1.12	▼	18 1.38	13 1.18	▽		2 0.67	△	12 2.00	13 2.17	△	10 1.25	1 0.17	▽	3369
感染性胃腸炎	12145 3.86	119 3.97	101 3.88	▽	56 4.31	46 4.18	▽	8 2.67	3 1.00	▼	41 6.83	39 6.50	▽	14 1.75	13 2.17	△	5319
水痘	721 0.23	2 0.07	4 0.15	△		1 0.09	△		3 1.00	△	1 0.17		▽	1 0.13		▼	431
手足口病	5389 1.71	76 2.53	57 2.19	▼	62 ◎4.77	45 ◎4.09	▼	10 ◎3.33	8 ◎2.67	▼	2 0.33	3 0.50	△	2 0.25	1 0.17	▽	958
伝染性紅斑	919 0.29	7 0.23	1 0.04	▽				1 0.33		▽	6 1.00	1 0.17	▽				304
突発性発しん	1497 0.48	23 0.77	25 0.96	△	4 0.31	11 1.00	△	2 0.67	1 0.33	▼	10 1.67	7 1.17	▽	7 0.88	6 1.00	△	543
ヘルパンギーナ	9809 3.12	340 ◎11.33	246 ◎9.46	▽	177 ◎13.62	96 ◎8.73	▽	1 0.33	12 4.00	△	133 ◎22.17	111 ◎18.50	▽	29 3.63	27 4.50	▲	1548
流行性耳下腺炎	492 0.16	4 0.13	2 0.08	▽				1 0.33		▽	2 0.33	1 0.17	▽	1 0.13	1 0.17	▲	95
<b>眼科定点</b> (定点医療機関数)		(5)			(1)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	9 0.01																
流行性角結膜炎	756 1.09	6 0.75	2 0.40	▽	1 0.25		▽	2 2.00		▽		1 1.00	△	3 1.50	1 0.50	▽	75
<b>基幹定点</b> (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	4 0.01																20
クラミジア肺炎	1 0.00																
マイコプラズマ肺炎	115 0.24	4 0.40	4 0.40		4 1.00	4 1.00											83
細菌性髄膜炎	7 0.01																8
無菌性髄膜炎	32 0.07	1 0.10		▽										1 0.33		▽	6

## <全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
結核	患者	2				※内、第31週追加報告1人。
腸管出血性大腸菌感染症	患者		1			型別:O157 VT1VT2
レジオネラ症	患者				1	
クロイツフェルト・ヤコブ病	患者	1				
百日咳	患者	2				ワクチン接種歴:4回 2人。小児 2人。

## <通信欄>

※第32週は、定点医療機関の休診に伴い、定点医療機関数が変更になっています。

(インフルエンザ定点:48→41、小児科定点:30→26、眼科定点:8→5)

※トピックスで、ヘルパンギーナ、手足口病について掲載しています。

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

< 定点把握感染症 報告患者数 年齢別 >

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ															
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									合計
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	2	2	4	3											11
咽頭結膜熱			3	1	6	1	1	1							13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1	4	1	6	2	4	6	2		2		1	29
感染性胃腸炎	2	11	15	20	7	10	10	6	3	2	6	7	1	1	101
水痘					1	1	1					1			4
手足口病		2	12	10	10	9	11	2				1			57
伝染性紅斑				1											1
突発性発しん		7	11	4	1	2									25
ヘルパンギーナ		12	60	76	40	27	13	6	6	1	2	3			246
流行性耳下腺炎								1		1					2

< 平成30年6月 月報 >

2018年7月25日 発行

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～6月	
	5月	6月	5月	6月	5月	6月	5月	6月	5月	6月		
<b>STD定点</b> (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	24	15	13	9	6	2	3	2	2	2	113
	定点当り	2.40	1.50	3.25	2.25	6.00	2.00	1.50	1.00	0.67	0.67	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	7	2	1	1	1	2	4	1	1	52
	定点当り	0.60	0.70	0.50	0.25	1.00	1.00	1.00	2.00	0.33	0.33	
尖圭コンジローマ	報告数	3	5	1	2			1	1	1	2	19
	定点当り	0.30	0.50	0.25	0.50			0.50	0.50	0.33	0.67	
淋菌感染症	報告数	5	3	2	2			1		2	1	17
	定点当り	0.50	0.30	0.50	0.50			0.50		0.67	0.33	
<b>基幹定点</b> (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	7	11	2	1		1	1	3	4	6	47
	定点当り	0.70	1.10	0.50	0.25		1.00	0.50	1.50	1.33	2.00	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	13	22	5	12	2		1		5	10	107
	定点当り	1.30	2.20	1.25	3.00	2.00		0.50		1.67	3.33	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数											
	定点当り											

< トピックス >

ヘルパンギーナ情報

県平均の定点当たり報告数は、4週連続で警報レベルとなっています。  
地区別では、村山地区と置賜地区が警報レベルとなっています。

- ・警報開始基準値:6人 警報終息基準値:2人
- ・第32週 定点当たり報告数(山形県:9.46人)  
村山:8.73人 最上:4.00人 置賜:18.50人 庄内:4.50人

手足口病情報

村山地区と最上地区の定点当たり報告数が、警報レベルとなっています。

- ・警報開始基準値:5人 警報終息基準値:2人
- ・第32週 定点当たり報告数(山形県:2.19人)  
村山:4.09人 最上:2.67人 置賜:0.50人 庄内:0.17人

< ヘルパンギーナとは >

エンテロウイルス(コクサッキーウイルスA群など)による感染症で、幼児を中心に夏に流行します。

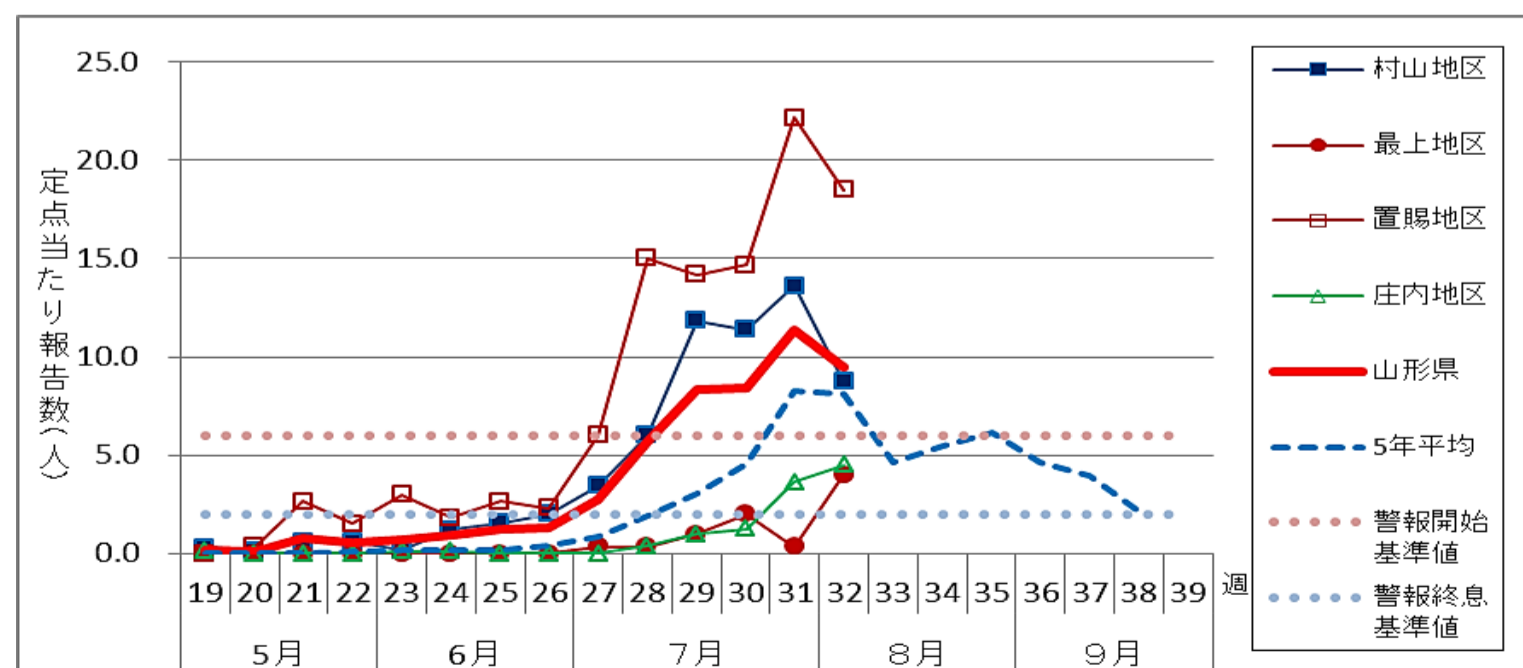
突然の高熱で発症し、続いてのどの痛み、のどの奥に水疱が現れます。  
のどの奥の水疱は、やがて破れて痛みを伴います。

< 手足口病とは >

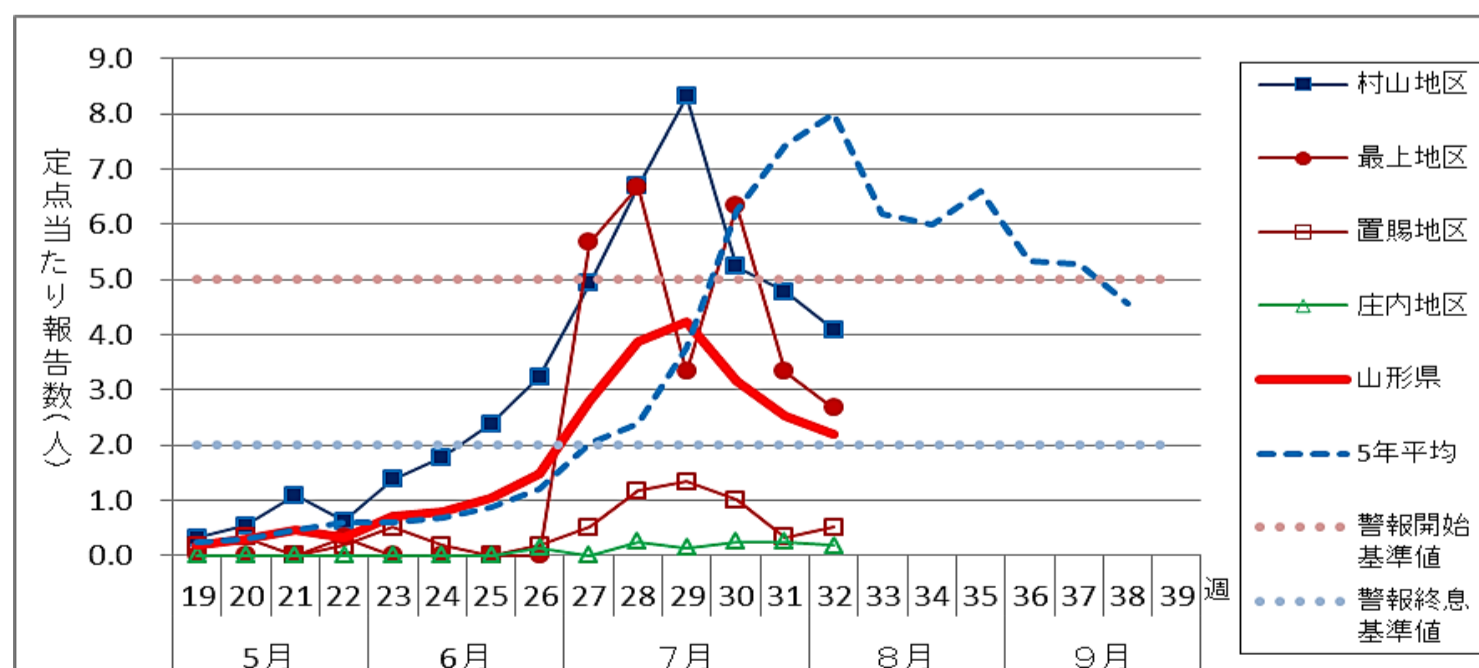
エンテロウイルス(コクサッキーウイルスA16、エンテロウイルスA71など)による感染症で、幼児を中心に、夏に流行します。

主に口の中や、手のひら、足のうらなどに水疱性の発疹がみられ、熱が出ることもありますが、高熱にはならないことがほとんどです。

< 定点当たり報告数の推移(山形県) >



< 定点当たり報告数の推移(山形県) >



ヘルパンギーナ、手足口病の治療は、対症療法が中心となります。口腔内の痛みにより、水分がとりにくい場合もありますので、脱水に注意しましょう。  
予防法としては、患者との濃厚な接触を避けることと、うがい、手洗いを徹底することが大切です。回復後も、便中には2～4週間にわたり、ウイルスが排泄されますので、おむつ交換や、トイレの後には特に入念に手を洗いましょう。

しっかり手洗い!

